

2015年12月期 第2四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社



証券コード : 4572

- 国立研究開発法人国立がん研究センターとの共同研究契約延長（5月）
- 第15回新株予約権（有償ストック・オプション）の発行（5月）
- TNIKキナーゼ阻害剤に係る米国特許商標庁からの特許査定通知受領（5月）
- 第14回新株予約権（メリルリンチ日本証券）の行使完了（5月）
- ジョンソン・エンド・ジョンソンの医薬品部門米国ヤンセン・バイオテック社とのライセンス契約締結（6月）
- 業績予想および中期経営計画の修正（7月）

8月以降

- CDC7/ASKキナーゼ阻害薬に係る中国特許庁からの特許査定通知受領
- 大阪府立大学との共同研究契約締結

第2四半期 連結経営成績の概況



- ✓売上高は、対前年同期比 270.7%増（対前期比828百万円増）
- ✓営業損益は、売上増、販管費圧縮等により 679百万円の黒字（対前期比957百万円の改善）
- ✓当期純損益は、営業損益の改善等により 666百万円の黒字（対前期比924百万円の改善）

（単位：百万円）

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益
2015年12月期第2四半期実績 (a)	1,134	679	704	666
2014年12月期第2四半期実績 (b)	306	△277	△257	△257
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	+828	+957	+961	+924
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	+270.7%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てして表示しております。

(注2) 対前年同期増減率における、「営業損益」「経常損益」「当期純損益」の値は前年同期においてそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

第2四半期 事業別業績の概況



(単位：百万円)

	売上高			営業損益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
2015年12月期 第2四半期実績 (a)	520	614	1,134	278	401	679
2014年12月期 第2四半期実績 (b)	306	—	306	38	△315	△277
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	+213	+614	+828	+240	+716	+957
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	+69.9%	—	+270.7%	+630.9%	—	—
2015年12月期 通期計画 (d)	917	614	1,532	398	△26	372
通期計画に対する 進捗率 (a)/(d)	56.7%	100%	74.0%	69.9%	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 営業利益における創薬事業、全社の対前年同期増減率および通期計画に対する進捗率は、創薬事業の前年同期実績および計画値がマイナスのため表示しておりません。

(注3) 創薬支援事業の2015年12月期通期計画値は、2015年7月28日発表の通期修正計画に基づいております。

バランスシート状況 (連結)



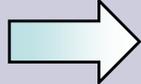
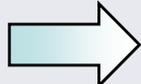
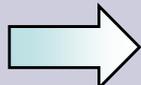
(単位：百万円)

	2015年12月期 第2四半期末	2014年12月末	増減額	増減理由
流動資産	2,021	907	+1,113	
現金及び預金	1,146	626	+519	
その他	874	280	+593	売掛金の増加等
固定資産	474	313	+160	クリスタルゲノミクス社株式評価増等
資産合計	2,495	1,221	+1,274	
流動負債	136	195	△59	未払金△85、預り金△28、未払法人税等+42等
固定負債	226	195	+30	長期借入金△19、繰延税金負債+50等
負債合計	362	391	△28	
純資産合計	2,133	830	+1,302	資本金及び資本剰余金+503、利益剰余金+666、株式評価差額金+119等
負債・純資産合計	2,495	1,221	+1,274	

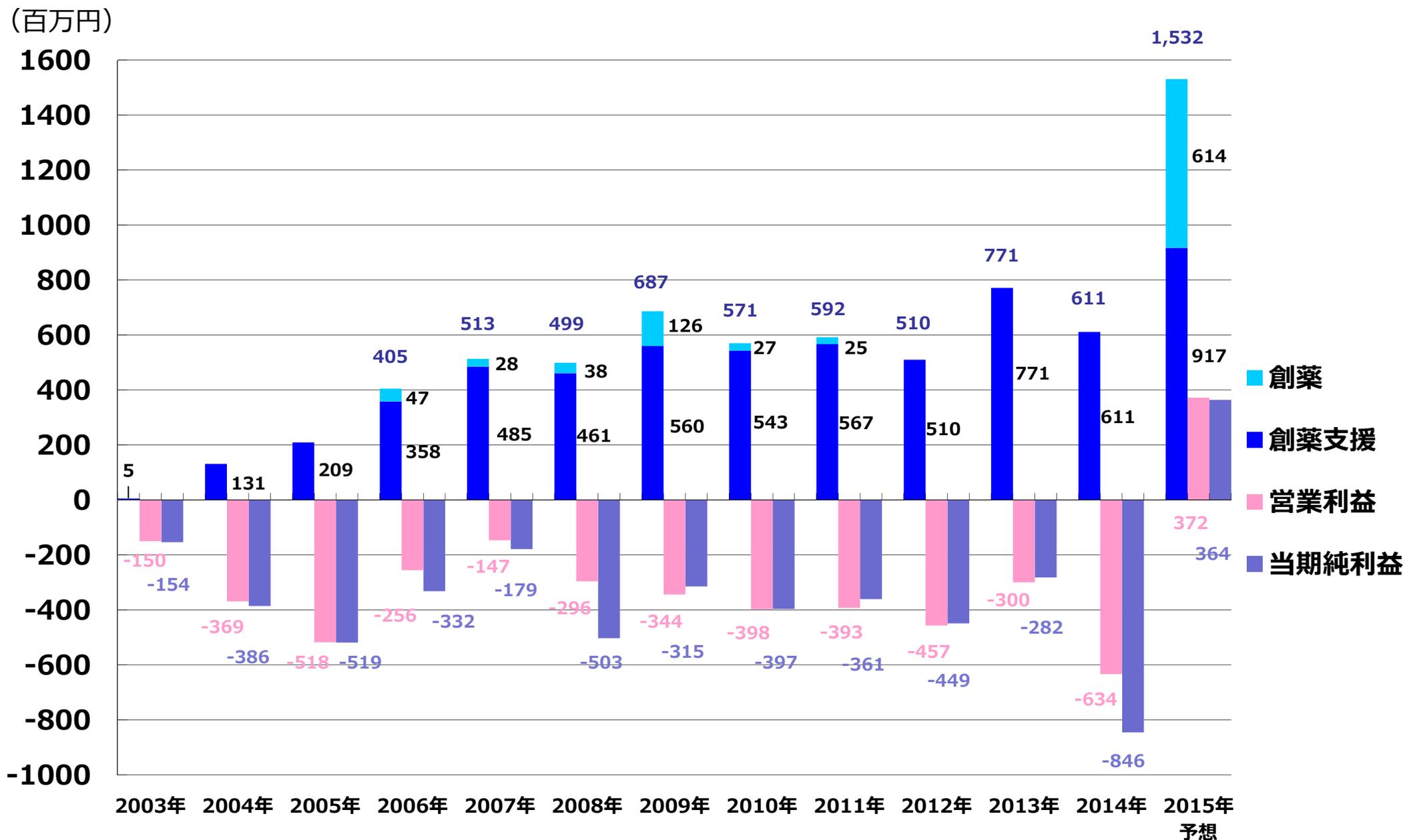
自己資本比率	85.2%	67.2%
一株当たり純資産	238.52円	98.69円
PBR(株価純資産倍率)	13.92倍	7.64倍
(参考) 当社株価	3,320円	754円

(注) 当社株価はJASDAQグロースにおける終値に基づいております。

2015年の事業計画の基本方針と経過

2015年12月期営業損益の黒字化の達成		達成見込
創薬事業における早期導出		J&J ヤンセン・バイオテック社へ導出済
創薬支援事業における大規模受託試験の獲得及び完遂		順調に推移
研究開発資金の継続的調達		第14回新株予約権による資金調達が完了

売上高、利益計画(連結)



（単位：百万円）	通期予算 (a)	通期修正 予算(b)	(b)-(a)	備考
創薬支援事業	917	917	—	
タンパク質販売	256	294	+38	米国+39
アッセイ系販売	40	36	△3	
スクリーニング・プロファイ リング受託	494	506	+11	米国+14
RPPA事業	27	12	△14	RPPAサービスの見直し中
ProbeX	30	—	△30	細胞系の構築に時間を要している
Crelux（仕入品目）	4	2	△2	
ACD（仕入品目）	48	42	△5	
CAI（仕入品目）	8	7	△0	
NTRC（仕入品目）	10	13	+3	
その他	—	2	+2	

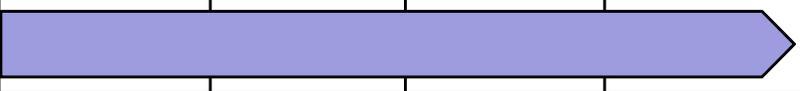
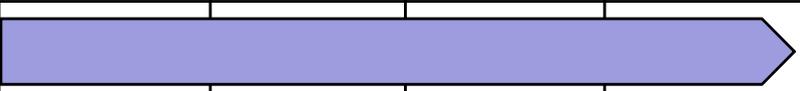
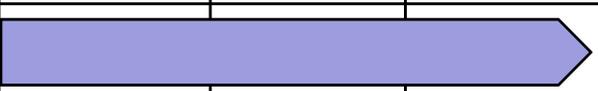
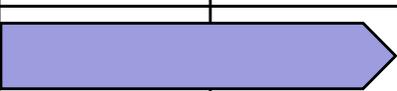
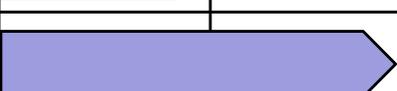
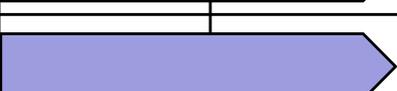
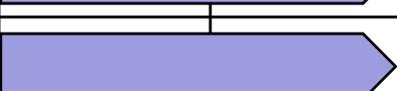
損益計算書 修正計画（全社）



(単位：百万円)	当初計画 (a)	修正計画 (b)	計画値増減 (b)-(a)	2014 実績(c)	対前期実績 (b)-(c)	備考
売上高	—	1,532	—	611	+920	
創薬支援事業	917	917	0	611	+306	
創薬事業	—	614	—	0	+614	
販管費	850	926	+76	1,013	△87	
研究開発費	490	507	+17	561	△53	
その他販管費	359	418	+59	452	△33	
営業損益	—	372	—	△634	+1,007	
創薬支援事業	406	398	△7	50	+348	
創薬事業	—	△26	—	△685	+658	
当期純利益	—	364	—	△846	+1,210	

下半期に創薬の研究開発を加速する

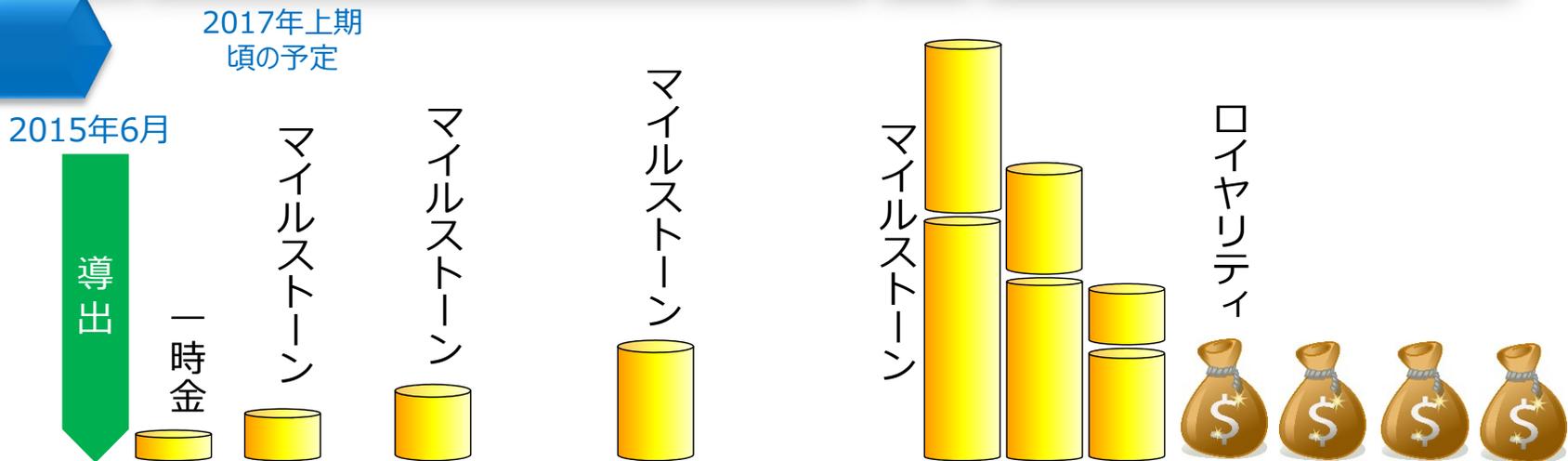
(単位：百万円)	2015年 前半期実績	2015年 下半期計画	2015年 通期計画
研究開発費			
創薬事業	148	333	481
創薬支援事業	8	18	26
計	156	351	507

化合物	適応症	標的	開発フェーズ				
			Lead generation	Lead optimization	Candidate selection	Preclinical	Clinical
低分子化合物	免疫疾患	Kinase	J&J (Janssen Biotech) へ導出済				
AS-141	がん	CDC7/ASK					
Backup化合物	がん	CDC7/ASK					
NCB-0846	がん	Wnt-signal					
NCB-0594	がん	Wnt-signal					
低分子化合物	白血病幹細胞	Kinase					
低分子化合物	免疫炎症疾患	Kinase					
低分子化合物	マラリア	N/A					
低分子化合物	神経変性疾患	Kinase					
低分子化合物	貧血	Kinase					

今後の薬剤の開発進捗に伴うマイルストーン・ロイヤリティのイメージ



当社



ヤンセン社による開発・販売

- 小野薬品工業株式会社との契約に基づく大規模受託試験を完遂する。
- 連結子会社の株式会社ProbeXのスプリットルシフェラーゼ技術の応用に基づく創薬支援ビジネスの拡大を図る。
- キナーゼに関する創薬基盤技術に基づく大規模受託試験の追加案件獲得。
- 北米地域における売上拡大。

<ライセンス済みパイプライン>

- 平成27年6月締結のJ&J医療用医薬品部門である米国ヤンセン・バイオテック社とのライセンス契約に基づき、当該医薬品候補化合物の開発は、ヤンセン社の負担で実施。(当社の開発費負担はなくなるため、他の研究開発テーマへ投入可能)

<既存パイプライン>

- TNIKキナーゼ阻害剤NCB-0846は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構が実施している創薬総合支援事業「創薬ブースター」の支援課題として、順調に前臨床試験が推進中。またバックアップ化合物の研究も順調に推進中。
- TNIKキナーゼ阻害剤のバックアップ化合物として、NCB-0594の研究を推進中。
- CDC7/ASKキナーゼ阻害剤AS-141は、様々な薬効薬理試験を実施するとともに、前臨床試験(非GLP及びGLP)を実施中。
- その他、初期段階のテーマもステージアップに向けて着実に研究を実施中。

<次世代パイプラインの構築>

- ▶ アカデミアとの共同研究を推進し、新規創薬技術に基づく新規標的パイプラインの構築を行う。
- ▶ 独自技術による、従来の手法では創薬困難なタンパクを標的としたパイプラインの構築を目指す。

<導出活動>

- ▶ ヤンセン社への導出実績・ノウハウを生かし、引き続き、創薬パイプラインの導出活動に積極的に取り組む。

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac（心臓）の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物科学と言われ、生物学（Biology）と生命科学（Life Science）から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078) 302-7075 Fax (078) 302-6665

<http://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。